



多様性の時代、  
SDGSの視点  
苑長 池田めぐみ

🌸 文集

# なぎさ

第77号  
なぎさ和楽苑  
令和4年1月27日発行

小学生時代、M学級というM先生の名前のついたクラスが一つだけあった。そのクラスは、障害のある児童5〜6名が学年を超えて過ごすクラスだが、高学年になると体育の授業だけは同学年のクラスの児童と一緒に過ごした。自分のクラスではKちゃんという男の子と体育の授業を一緒に受けた。Kちゃんの周りにはいつも児童がいて、お互いに楽しく過ごした。いつの時からか休憩時間など、友達と一緒にM学級に行つてはオルガンを弾き、ゲームをして遊んでいた。学校でM学級について説明を聞いたのか覚えていないが、ただ、M先生からはクラスがいつもオープンになっていること、一緒に仲良く過ごしてほしいというメッ

セージがあつたように記憶している。自身、その時にM学級へ出向いたことにか理由があつたのかどうかと考えるが、ただKちゃんがクラスにいるし、低学年の児童たちとも一緒に遊べるし、というくらいの気持ちだつたと思う。今振り返ると、児童にとつてM学級の存在は、一人一人の個性を理解することに自然につながつていったのかもしれない。

当苑では「誰一人取り残さない社会の実現を目指して」というSDGSの視点を踏まえた取り組みを意識しているが、多様性の時代といわれる昨今、違いを受け止めること、生き方の多様性、自分自身の多様性など、どこまで自身にも培われているだろうか。今一度、M学級で過ごした自分の姿を思い出してみたい。

## 令和3年度 法人合同新任研修

4月4日(日)・5日(月)の2日間、「令和3年度法人合同新任研修I」を開催しました。この研修は、法人職員としての帰属意識を持ち、社会人として組織人として広く学ぶ機会であり、介護等支援サービスに必要な知識と技術を身に付け、また、専門職としても具体的サービスに応用できる人財の育成を目的としています。

今年度は感染症対策のため、検温やアルコール消毒の実施、また密を回避するため、会場も1日目は日曜日になぎさ和楽苑で開催し、2日目は場所を変えてタワーホール船堀で開催しました。鈴木理事長、池田苑長をはじめ、専門職



の方々や外部からも講師をお招きし、法人理念・施設運営、認知症、チームケア、虐待、接遇などの講義を受講しました。参加した職員は緊張している様子もありましたが、専門職としての第一歩として、さまざまなことを学ぶ機会になりました。これから現場でも学んでいきますが、今回の研修で学んだことの理解を深め、東京栄和会の法人職員として活躍されることを期待しております。





## 若年性認知症カフェ あしたばカフェ

### オンラインバージョン



偶数月の第3日曜日に行っていた「あしたばカフェ」は、あしたばメンバー、ご家族、ボランティア、地域の方々との多くの交流や若年性認知症の理解につながる大切な機会となっていました。感染予防の観点から開催を見送ってまいりました。今まで通りの開催はできないものの、「代替する方法はないか」とカフェの実行委員で何度も検討を繰り返しました。「対面せずともコミュニケーションが図れる、オンラインを利用したあしたばカフェの開催をしよう」と方



向性が決まってからも、「初めて参加を希望する方はマンツーマンでお話を伺った方が良いのではないか？」という意見がある一方、「複数人でお話を伺うことで多角的な助言ができるのではないかと」の意見も出ました。

令和2年12月20日（日）、「あしたばカフェオンラインバージョン」で再開したあしたばカフェは、令和3年12月で7回目を迎えました。あしたばメンバー参加による企画も回を重ねるたびに精度が高まってきました。また、2部構成の1部では全員で楽しめる企画、2部ではメンバーとご家族に分かれて意見交換を行ってまいります。ぜひ一度、ご参加ください。

## 若年性認知症相談センターを開設しました

なぎさ和楽苑が東京都から若年性認知症のモデル事業を受託して12年が経過しました。事業を継続する中で、医療機関で若年性認知症との診断は出たものの、ご本人の意向に沿った活動や居場所、ご家族の支援は十分ではないのが現状であり、専門窓口の設置を求める声が、なぎさ和楽苑内外で多くありました。



体制整備・調整を重ね、満を持して令和3年7月1日（木）、若年性認知症相談センター（江戸川区あしたば相談室）を開設しました。若年性認知症のことでお悩みを持つ、ご本人、ご家族からの相談を受ける一方、専門家からのアドバイス、情報提供等を目的として、担当者を配置し電話・メール・LINE・オンライン（Zoomによる）で受け付けを行っています。お勤め先や身の周り思いあたる方がいらっしゃいましたら『若年性認知症相談センター（江戸川区あしたば相談室）』をぜひご紹介ください。

## 特定技能実習生の受け入れ

東京栄和会としては、初となる特定技能実習生のチュオン・ティ・ホアさんが2021年1月就業を開始しました。日本の高齢化が進む一方、介護の人材不足が課題となる中で、海外の方に目を向けた施策を取り入れる形となりました。ベトナム出身のホアさんは、技能実習生として来日し、4年滞在している方で介護福祉士の取得を目指しております。



『明るくおおらか。前向きで一生懸命な人柄で、毎朝、出勤しユニットに入ると一人ひとり入居者の方へ元気に挨拶をしてから仕事を始めます。その内容は、間接業務に加え、食事介助、口腔ケア、入浴介助（特殊浴槽）等の直接介助も行っています。資料や記録から読み取ることや文章を書くことは難しい様子で、現時点の課題となります。解決策として、新人職員研修の資料を活用して専門用語の説明をしたり、ユニット職員がケアの根拠をわかりやすく指導しています』とリーダー。

今後増えることが見込まれる、特定技能実習生と共になぎさ和楽苑も新たな可能性を追求してまいります。



## 雛人形に願いを込めて



雛人形は、子どもたちの代わりに病気や事故から守ってくれると言われていて。そのため、女の子の健やかな成長や、将来の幸せを願う気持ちを込めて飾っているそうです。

当苑では、この感染症対応の中でもひな祭りの雰囲気を楽しんでいただけるよう、各階にひな壇を飾り、一緒に写真を撮るなどして、皆さん楽しんで

いただきました。なかには「毎年家にも飾っていた」と昔を思い出し、雛人形の前で涙される方もいらっしゃいました。

地域交流スペースの7段の雛人形は、毎年ボランティアの方々が飾りに来てくれています。コロナ禍であっても、ボランティアの方々は快く引き受けてくださり、飾り付けてくださいました。「見るだけ

ではなく、思い出に残す」をコンセプトに、雛祭り写真撮影スポットを設置し、ボランティアの方からいただいた生け花などで華やかになりました。



昨年からの開催しております、「よりあいの会」。もともとは入居者の皆さまと苑長との間で時間を共有していた「話し合いのひろば」をバージョンアップしたものに なります。今までの大人数での参加でご意見を伺う場というものから、入居者の皆さまをはじめ、苑長、職員が少人数で「気楽にゆつくりとお話を楽しむ」をコンセプトに、ゆつくりとした時間を参加者で過ごしております。現在は感染対策中ということもあり、30分程度の開催となっておりますが、毎回参加者を変えて、多くの入居者の方にご参加いただき、懐かしい話題から現在に至るまで幅広いお話を伺っています。参加



「よりあいの会」をさまざまな形で開催していきたいと思っております。



された入居者からも、「もう時間かと時間を忘れて話している方や、苑長とともに参加できたことを喜んでくださる方もいました。池田苑長も「ほんのひととき、まったりしたお時間を共に過ごさせていただき楽しみな時間になっています」と話しております。



気楽にゆつくりお話を

よりあいの会



# 新たな地域との繋がり

## 【ボランティア・地域交流】

コロナ禍による影響でなぎさ楽苑に溢れていた笑い声が影を潜めて早2年が経過しようとしています。毎日のようにお越しいただいていたボランティアの方々、定期的に交流会を開催していた保育園、幼稚園、小学校の子どもたちの元気な姿や声を聞くことも久しくできていません。しかし、このような環境下で



も地域の皆様と心を通わせ繋がり続けることができる「新たな繋がり」にチャレンジしています。

ご自宅にいる学生の皆さんや赤ちゃん、ママさんといった幅広い世代の方々とオンラインで繋ぎ、楽しく交流する取り組み、また少しでもご入居者さまの居室が明るくなるようにと一つひとつ手作



りで日めくりカレンダーを作成しプレゼントしてくださるなど、直接会わなくても互いに「思いやり」を届ける、温かい交流が生まれています。

これからも当苑はこれまで築き上げた地域の皆様との繋がりを絶やさぬよう、また新たな様式で繋がるご縁を大切に、邁進してまいります。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



### YouTube

「ご自宅でもできる介護技術講座」や「特別養護老人ホーム入居者へのインタビュー」「介護の仕事の魅力」「特別養護老人ホーム職員の1日紹介」等の動画を配信しております。これまで多くの方に伝えることができなかった情報や思い、可視化が難しかったことを紹介できる貴重なツールになります。



### 公式SNS開設と活動展開

令和2年度より幅広い世代への新たな情報発信手段として、公式SNSを開設いたしました。Instagram（インスタグラム）の公式アカウントと公式YouTubeチャンネルになります。

#### instagram

アカウント名：@nagisawarakuen



行事や地域活動、ボランティアの皆様の活動報告、ご入居者さまの日々の様子等を投稿しております。情報を発信するだけではなく他施設の取り組みや地域の声といった貴重な情報収集を行うツールとしても活用しております。



今後も個人情報保護に配慮しつつ、当苑の取り組みをわかりやすくタイムリーに発信してまいります！ ぜひご覧ください！

# 家族会との繋がりを大切に

特別養護老人ホームではご家族と共にご入居者の生活を支えるため、家族会にご協力いただいております。ご家族に幹事を担っていただき、サービスの在り方についてご意見をいただいたり、ご入居者に必要な備品のご寄贈など活動いただいております。

令和2年度には、施設協力費として網戸や車椅子、移乗用のボードをご寄贈いただきました。ご入居者により良い生活を送ってもらうために家

族会からのご寄贈は非常にありがたく存じます。また、防災協力費としてランタンや停電時用の非常用バッテリーもご寄贈いただきました。過去にはご入居者の非常食だけでなく、職員分の非常食もご寄贈いただいております。ご家族から「有事の際は職員の皆さんが頼りであるため、ご飯を食べて力をつけてほしい」とのありがたいお言葉を頂戴しました。



家族会の活動を通じて、ご入居者の生活を支えるのは施設職員だけでは十分ではなく、ご家族のご協力があってこそであると実感しております。引き続き、ご家族のご意見やご協力をいただき、質の高いサービスを提供していきたいと考えております。

### TOPICS

#### 感謝

## イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

イオン葛西店様より44800円のご寄付をいただきました。これはイオン様の社会貢献事業であり、お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、地域の福祉・ボランティア団体が記載されている店内備え付けのBOXに投函することで、そのレシートの合計金額の1%がそれぞれの団体にギフトカードという形で還元されるという取り組みになります。

ご利用者さまが日々の生活で使用する電気ポット、CDラジオ、血圧計、体温計をいただきました。

イオン葛西店様、地域住民の皆さまのご厚意に心より感謝し、大切に使用させていただきます。



非常用バッテリー

## 助成事業の取り組み

### 公益社団法人日本社会福祉弘済会

#### 「社会福祉助成事業（研究事業）」

公益財団法人日本社会福祉弘済会における「社会福祉助成事業（研究事業）」の助成を受け、「家族介護者支援ネットワーク構築に関する研究」に取り組んでおります。区内家族会やケアラズカフェ・認知症カフェ（オレンジカフェ）等の「介護者が集える場」の現状、支援機関が感じている家族介護者支援への課題等、350を超える団体・機関の皆様のご協力を得て実態調査を実施中です。調査結果を基に、各団体の紹介資料の作成、連絡会の開催等を予定しております。事業の成果は改めてご報告させていただきます。

### 公益財団法人キリン福祉財団

#### 「令和3年度キリン・地域のちから応援事業」

公益財団法人キリン福祉財団における「令和3年度キリン・地域のちから応援事業」の助成を受け、「地域と施設を繋ぐオンラインボランティア」に力を入れて取り組んでおります。感染症予防対策から苑内でのボランティア活動が難しくなり、新たなプログラムとして始まったのがオンラインボランティアです。ビデオ電話ツールを使用しご利用者さまとボランティアの皆さまを繋ぎ、直接会うことができなくても心と心を通じ合わせることができる活動です。

いただいた助成金はオンラインを繋ぐための機材の購入、広報活動に使用させていただいております。環境が充実することで活動内容、質ともに充実したものに進化してきております。







## 母と私たちと家族会

母の認知症に気づき、治療を始め、その間デイサービス、ショートステイなどを利用させていただきながら過ごしてきましたが、大腿骨骨折を機に胃瘻、常時ベッドにいる状態となりました。認知症はどんどん進んで訪問医療、介護サービスを受けながら日々を過ごすようになりました。

年間5000人を超すボランティアの皆様と和楽苑のスタッフの方々の仕事には当時より感謝しておりましたが、いよいよ入所させていただけるようになり、さらにその細やかな介護を目の当たりにして、ますます感謝の度を強くしています。

胃瘻だったのが経口で食事をとれるようになり、明らかにふっくらとしてきた母を見るのは喜びです。もうすぐ100歳を迎える母に清潔で穏やかな日が保たれているのは何にも

増してありがたいことです。

コロナ禍で、面会はもとより会議もイベントも叶わない状況が続いていますが、家族会が協力しあい入居者ともどもアットホームな毎日が送れるよう声を掛け合えればと願っています。この未曾有の感染症が早く収まりますよう、スタッフのご苦勞がいくらかでも軽くなりますよう微力ながら母や入所者様のためにできることをさせていただきたいと思っています。

なぎさ和楽苑 家族会会長 青谷 懿  
(入居者 青谷はる系)



## 熟年相談室より

### 地域連携会議開催

熟年相談室では、“熟年者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられる町づくり”を目指し、毎年「地域連携会議（日常生活圏域での地域ケア会議）」を開催しております。

令和2年は新型コロナウイルス感染症のために集いの場が休止するなど、人とつながる機会が失われ、地域にも大きな影響が及んだ年となりました。その中で、西葛西熟年相談室では清新町都営住宅自治会の皆さまと「集合住宅での安否確認・見守りのあり方」を、東葛西熟年相談室では東葛西1丁目団地自治会の皆さまと「住民アンケートからのニーズ把握」をテーマに取り上げ、自治会、民生・児童委員、医師、なごみの家等の地域関係者と共に意見交換を行いました。

「困ったときに相談する場所がわからない」「コロナ禍で外出や交流の機会が減少しフレイ



ルが進んだ」「孤独死が続いて不安になった」「住民から介護離職の相談を受けた」



といった課題が挙がり、今後の関係者間の連携方法の取り決めなども進んでおります。“顔の見える関係”を築きながら、これからも皆さんの声に真摯に向き合ってまいります。

## TOPICS

### SDGsに向けた取り組み ～アレンジメント委員会の発足～

当苑では、新たに「アレンジメント委員会」を発足いたしました。職場環境改善に向けてハードおよびソフト面について、既存のものを生かしながらアレンジに組み込み、ご利用者さまにとって過ごしやすい環境、職員にとって働きやすい環境を提案・推進することを目的としています。また、SDGsの視点を持った活動展開にも力を入れています。



令和2年11月1日、江戸川区から特定相談支援事業所の指定を受け、令和3年6月からプランの作成を開始しました。また、令和3年4月1日には、東京都より指定障害者福祉サービス（短期入所）の指定を受け、受け入れ体制を整え、モデルケースからの受け入れの調整を行っております。

なぎさ和楽苑の前身である博愛ホームより、高齢者福祉、介護の分野では数多くの事業を展開してまいりましたが、サービスを必要とする高齢者世帯に障害児（者）が同居しているケースもあり、高

## 障害者福祉サービスの展開

齢者分野と障害者分野を跨いでの世帯支援の必要を感じておりました。障害児（者）も年を重ね、高齢者となり介護保険の利用が見込まれることもあり、介護サービス利用前からはなぎさ和楽苑が関わることで、利用者サイドからの安心感の担保と、事業所サイドからのサービスの連動性・情報の連続性のメリットがあると思われま

## 文集に寄せて

職員より



平成13（2001）年3月21日に入職した私は、なぎさ和楽苑で働き始めて20年という節目を迎えた。この文集の原稿の依頼があり、入職から現在まで振り返るきっかけとなったが、20年間の中で自分は成長したのだろうか…。

入職当初の配属は特養であった。特養で18年間勤め、2年前に通所介護、いわゆるデイサービスに異動となった。特養で働いていた頃は、施設と在宅サービスとは大きく違うものだと感じていたが、在宅サービスでの経験を重ねるにつれて、どち

らも人と人との関わりが基本となる仕事であり、なにもそこには違いがないことがわかった。介護というものは、その人の生活を支えることを追求し続ける世界である。20年働いたからこそわかる、介護の難しさや奥深さを痛感している。

介護は技術や知識と思われがちだが、人と人との関わりにより生まれるところが大きい。当法人の『思いやりの心の介護の実践』という理念にもあるように、相手を思うことや、相手のことを考えることでよりよい介護の実践になるのではないかと感じる日々である。

過去に、「夢のない人に、人はついていけない」と聞いたことがある。介護という一つの道を歩み続けるからこそ、新たな発見に繋がっていくと思う。介護を究めるといふ夢を持って、介護の職人を目指し、今後も精進していきたい。

地域部 居宅サービス課  
通所介護事業係 係長 佐藤雄一郎

## TOPICS 令和2年度・3年度 取材対応

令和2年度・3年度もテレビ、新聞などさまざまなメディアの取材を受けました。

- ・NHK（日本放送協会） ・読売新聞
- ・東京新聞 ・福祉新聞
- ・ボランティア・市民活動情報誌「ネットワーク」
- ・えどがわボランティアセンターだより
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会 月刊誌「ふれあいケア」
- ・中央法規出版雑誌「おはよう21」



### 施設運営御賛助御芳名

（2021年1月～9月）

#### ■御寄贈の部

東京都福祉保健局様、松本純子様、東京都公衆浴場業生活衛生同業組合 江戸川支部長 中山光雄様、深澤幸子様、メディアカル・エイド株式会社様、東洋羽毛株式会社 代表取締役 永岩謙一様、社会福祉法人 大阪ボランティア

協会様、公益財団法人 24時間テレビチャリティー委員会様、なぎさ和楽苑家族会様、株式会社ワイティーエス様、イーオクト株式会社 営業部 小林夕起様、一般財団法人 食品ロス・リポーションセンター様、イオン葛西店 店長 大森明美様、佐久間 茂之様、東京臨海ロタリークラブ 会長 石井敏子様、大島様、小倉幸治様、江戸川区福祉部 障害者福祉課 事業者支援係様、有限会社花銀様、株式会社サポーター 代表取締役 中島和紀様、江戸川区福祉部 介護保険課、関口たつ子様、町哲夫様、中村邦子様、鈴木啓之様、内田未来様、赤尾聡子様、株式会社 読売巨人軍ファン事業部様、森幸男様、花岡絹江様、黒田一美様、浅井正様、佐藤朱美様、潤間良子様、日本介護支援協会様、伊藤理香様、NPO法人 ピースウィング・ジャパン様、高橋悦子様、フードバンクジョイライフ 代表 高橋信行様、石井明様、余宮良子様、中谷勢律子様、株式会社フアインアーツ斉藤洋子様、渡辺いと子様、株式会社江戸川防災 長和敏様、清水英子様、田中産業株式会社 代表取締役 田中康生様、越澤和子様

■御寄付の部

石田正子様、松崎雅子様、渡辺いと子様、なぎさ和楽苑後援会様、伊藤昭勝様、青谷懿様、山下セイ子様、倉上操

### 後援会加入のお願い

皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願いたします。

■お申し込みは下記まで  
 社会福祉法人東京栄和会  
 なぎさ和楽苑後援会  
 事務局 なぎさ和楽苑  
 江戸川区西葛西 8-1-1  
 ☎ 03-3675-1201

会費 個人 一口 1,000 円 団体 一口 5,000 円

会 長 安斎 久喜  
 事務局 平井 剛



### 資格取得者（敬称略）

#### 介護福祉士

阿戸匠・新井志穂  
 大塚春奈・金井健  
 野口巧貴・藤代万由子  
 プラディーブ・本間成一  
 山内佑美・李文欣

#### 精神保健福祉士

尾田めぐみ

皆さん、おめでとうございます。

様、相澤丈巳江様、石川雅子様、石和田喜代子様

\*心温まるご支援に感謝いたします。  
 尚、苑行事に伴うお祝いは割愛させていただきます。

## 文集なぎさ第77号

（令和4年1月27日発行）

社会福祉法人 東京栄和会 **なぎさ和楽苑**

発行者 苑長 池田めぐみ  
 編集 「なぎさ」文集委員  
 （遠藤・吉村・鳥居・釜島）

〒134-0088 江戸川区西葛西 8-1-1  
 info@tokyoeiwakai.or.jp  
 http://www.tokyoeiwakai.or.jp

TEL.03-3675-1201 FAX.03-3675-1203

制作 株式会社 明光企画

### 編集後記

先日、オンライン（Zoom）でご利用者さまとボランティアの方がお話しされているときに、ご利用者さまから「今は大変な時代であると言われていたけれど、昔も大変だった。90年生きてきて私は今が一番幸せ」との話があり、その言葉にはとさせられました。日々の生活がコロナ一色になってしまったことにより、無意識のうちにネガティブな思考になってしまっていると痛感しました。また、同時に年を重ねるのが楽しみにもなりました。“気は持ちよう”とよく言いますが、このような時代だからこそ、今まで当たり前だと思っていた日常の幸せに気付けるかもしれません。人生の大先輩の言葉にいつも支えられているな…と感じる今日この頃です。（釜島）

